

## 鹿児島大学病院

研修医 今村 研介 2016年12月

2015年4月より始まった2年間の初期臨床研修も、1年と8か月が経過し、残り4か月になろうとしています。2年間の初期臨床研修期間は、これから医療に携わらせていただく期間からしてみれば、短いように感じますが、大学を卒業し医療者になる大事な期間であったと思います。この2年間で多くのことを指導医や上級医の先生方、看護師さんやスタッフ、そして患者さんとご家族に教えていただきました。

国家試験に合格することができ、今後始まる医療人生に胸を躍らせながら始まった研修医生活でしたが、国家試験だけの知識では何もできなく、不安で仕方ない毎日でした。患者さんにとって、とても頼れる医療者ではなかったと思います。始まった当初は薬の名前を覚えることから、オーダーや指示出しの仕方、医療の流れを理解するのに必死でした。また、国家試験では今後の治療をaからeの5択で選ぶことができますが、実際の現場では答えは一つではなく、患者さん一人ひとりに合った選択肢があり、しかしそれが治療継続していくにあたり必ずしも最良の選択肢でない場合もあります。

私は、鹿児島大学病院の初期研修「桜島プログラム」で研修をさせていただきました。「桜島プログラム」の利点は、自分が希望する診療科や協力病院で研修できることです。その中で1年間を大学病院で、もう1年間を協力病院で研修させていただきました。大学病院では稀な疾患や、高度な医療に携わることができ、上級医の先生方も多く、医療を初め医療人として大切なことを教えていただきました。協力病院では、common diseaseを中心に多くの症例や手技を体験させていただきました。1つの科に研修医1人のことが多く、先生方に医療を初め個人的な悩みも相談しやすい環境であり、また多くの先生の医療スタイルを学ぶことができました。大学病院と協力病院で研修でき、学ばせていただいたことは、とても勉強と自信になり、また今後医療人生において大切なものになったと思います。

まだ医療者になって日は浅いですが、医療従事者の一員になれて良かったと思います。毎日自分の未熟さを実感させられ、落ち込むときや後悔することもあります。患者さんやご家族の笑顔を見ることができたときは、本当に幸せな気分になります。まだまだ一人前には程遠く、春からは3年目となり責任も増してきますが、今後も悩み勉強しながら励んでいきたいと思っています。